

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年3月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103185号
法人名	医療法人 慈恵会
事業所名	グループホーム ザ テラス 西田橋
所在地	鹿児島市 西田1丁目 11番1 (電話) 099-231-0091
自己評価作成日	H25、2、10

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「ゆっくり やさしく おだやかに」を日々のケアに活かして、入居様が安全の中で自立した生活が出来るように、スタッフは時間をかけて見守りを行います。中央駅から徒歩10分ほどの場所にあるため、交通の便に恵まれています。また、建物の4F～6Fにあるため、窓からの眺めは良く、日光もたくさん降り注いでいます。地域の行事等に参加して地域とのつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島中央駅からほど近い徒歩圏内に位置し、大型スーパーや病院など生活資源にも恵まれた環境である。母体法人は医療施設や介護施設・看護ステーションなども運営しており事業所との連携も図られ安定した健康管理ができています。マンションの4階から6階に位置し地域の方の訪問などの交流はあまり見られないがなじみの美容室の訪問もある。町内会にも加入し積極的な交流に努め地域の六月灯や夏祭りへの参加はかせない。鹿児島の春秋の風物詩の木市にも散歩がてら行くこともある。職員の入れ替わりも少なく利用者との繋がりの深さが伺える。職員は利用者の毎日の変化に気付き希望や思いを感じとりながら安心して生活できる様にサービスの質の向上に努めさらに今後も取り組んで支援していく意欲がみえる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり やさしく おだやかに」と、「地域との結びつきを大切にして、積極的に活動に参加する」を理念に職員一同実践につなげている。	各階入口に理念を掲示している。設立当初からのわかりやすい理念とは別に補足の理念を持ち、職員一同理念を目標に実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内の運動会や地域行事の六月灯、町内の夏祭りに参加している。馴染みの美容室を利用したり、近所の美容室の方が訪問したり、散歩中に挨拶を交わしている。また、近隣の商店を利用するなど、顔なじみの取り組みを行っている。	町内会にも加入しており積極的に地域行事などへも参加している。近隣の商店での買い物や美容室も利用している。学生の職場体験も積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	学生の職場体験を受け入れたり、実習の場として地域に提供している。今後、地域での介護支援等の依頼があれば、積極的に貢献していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサービス向上のために現状の報告や今後の取り組みを報告し、参加者からは貴重な意見やアイデア、地域との交流の場等を頂き、より細かいケアやサービスの変更に繋げている。	会議は2カ月に1回、町内会長・民生委員・老人会・行政・家族の参加で開催している。ホームからの行事報告・活動報告や行政からのお知らせや、家族からの意見要望も聞き運営に反映しサービス向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加してもらい、気軽に相談出来る関係が築けている。また、地域連絡会の中でも協力や相談を行っている。	2カ月に一度の地域包括センター主催の地区連絡会にも参加している。日頃よりいつでも相談できる関係作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して理解を深め、玄関等の施錠は行わず、利用者が自由に活動出来るケアを行っている。	法人全体の研修会には職員も参加している。委員会も設置しており、事例としてのヒヤリハットは無いが想定して職員間で学習している。玄関は鍵を掛けずに、鈴を玄関にはつけている。利用者が自由に活動できる身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、スタッフがしっかりと認識出来るように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等で勉強し、必要時に活用出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約等の改訂野債は、改訂後の契約書を作成し、説明後、サインと捺印をもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常から利用者および家族の意見を聞ける様に話しかけたり、年に2回行事に合わせて家族会を開催し、家族の意見や家族間での意見交換の場としてしている。また、地域の方々との交流の場も兼ねてそこでの意見を反映させている。</p>	<p>家族会を年2回開催して、意見・要望・質問を聞き取っている。参加のない家族からは面会時の声掛けや電話で聞きだしている。出された意見等は運営に反映しサービス向上に活かされている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議等で職員の意見やホームでの課題等を話し合い、問題解決をしたり、よりよいケアに結びつけている。</p>	<p>毎月の職員会議で意見交換をしている。急な要望にも連絡ノートや申し送りノートを活用し意見を元に話し合い、サービスの質の向上に繋げている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員からの意見を大切にしながら個々の能力を把握し、その能力を活かせるように職場環境、条件の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月法人内の勉強会に参加している。また、外部の研修にも参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム協議会に参加しており、研修会に参加している。また、地域連絡会を利用して地域のグループホーム等を見学したり、交流の場を設けてつながりを作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集のために本人と家族に合い、顔なじみの関係を築く事で、不安を取り除けるたり、安心感を持ってもらうことで信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安の聞き取りはもちろん、ホームの見学に来ていただき、生活する環境を感じてもらい、不安感を解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている事を職員間で見極め、支援を行い、その人らしい生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常日頃から人生の先輩としての敬意を持ち、家事や調理、風習等を学ぶ事が多い。支え合いの関係が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお手紙で、本人の様子を報告したり、気軽に面会出来るように言葉掛けや雰囲気気をつけている。家族が積極的に利用者を支えていけるように職員はあくまでも裏方であることを理解してもらう。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通して年賀状のやりとりや知人の面会を促したり、これまで利用していた美容院を利用したりしている。	利用者には近隣に住んでいた方もいてその後の関係も美容室や商店への買い物へも連れて行き、なじみの関係が途切れないように支援している。友人知人の訪問もある。希望があれば墓参りにも連れていく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関わり合いや性格を把握しており、トラブルや孤立していることがないように職員が支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の面会や、相談を受けた場合は積極的に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や様子等からその人が望んでいる事を把握したり、昔の趣味等から活動の場を広げたり、思いに添うようにしている。また、家族の協力も得ながら、日々検討している。	話しをじっくり聞きその思いを把握して思いに沿うようにしている。思いを伝えられない利用者からは、表情や家族からの話しをきいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を通してこれまでの生活歴を知ったり、家族や情報提供書でこれまでの生活歴を把握し、生活しやすい環境の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活パターンを把握した上で、そのときに必要なケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で意見や情報交換をして話し合い、介護計画を作成している。また、モニタリングを行いその時の状態に合わせて変更等も行っている。	担当者会議で本人や家族からの意見や希望を聞き取り、短期・長期で介護計画を作成している。状況に変化があればその都度に計画の見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録に残し、情報の共有と変化に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時にできる最大限の支援を行い、通院介助、美容院や買い物等、本人家族の状況にあわせて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得ながら生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の割合でDr, 往診がある。家族が通院介助をする場合は日々の情報提供（メモ書き）を行ったり医師の提供書を渡したり、内服薬が分かるように手帳をわたしている。	母体である医療法人とは連携がとれていて、訪問看護は毎日来ている。かかりつけ医も歯科もあり往診に来てもらっている。医療受診での健康管理で家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日（月～金）、訪問看護師が訪問し、健康管理を行っている。また、報告、相談を24時間、密に行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>情報交換を行い、混乱が少なく、安心して治療できるように定期的に面会したり、退院までの状況を定期的に把握することでこれからの生活に必要な環境を整えている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族と話し合い、今後の方針を決めている。また、看取りを行う際は訪問看護師と連携して、現状の中でどこまでできるのかを話し合い、提供を判断していく。</p>	<p>重度化や終末期に関するあり方は入居時に文書を作成して同意をもらっている。主治医の指示の下どこまでできるのかを話し合い支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会に参加して定期的に学んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>常に落ち着いて行動できるように、日々のケアを行う際に避難方法を考えながら行動している。また、万が一の場合は法人施設からも駆けつけるようになっている。</p>	<p>すぐ近くにある法人との連携で強力対策は話し合っている。年2回の昼夜間想定での避難訓練も行い、通報装置・スプリンクラーも設置済みである。消防からも非難場所への誘導・確保の指示も受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けだけでなく、全てにおいて尊敬の念を持ってケアに関わっている。また、プライバシーの確保も同様に気をつけている。	法人の全体での毎月の研修会や日常の中で気遣っている。名前の呼び方や言葉使いには特に気を付けている。職員同士でもお互いに気をつけあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと時間をかけて本人の思いや言葉を聞き出すようにしている。自己決定の大切さを全職員が理解している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを一番に、職員は寄り添う介護を心掛けその時の希望に添えるケアを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人に衣類を選んでもらったり、行事時に化粧をして楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない程度で、食事の下準備やテーブル拭き、食器洗い等を職員と一緒にしている。買い物も一緒に行っており、季節の食材選びも行っている。	出来る範囲での簡単な調理手伝いや食器片付けも職員と一緒にいき、食事は職員と同じテーブルで食べて会話を楽しんでいる。年4～5回の外食も喜ばれている。弁当持参で花見にも出かける事もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいように刻んだり、ミキサー食にしたり、病状に合わせて水分摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きの言葉掛けや、口腔ケアを行い、異常があれば歯科医師に往診してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はオムツカバーを使用せず、個々に合わせてさりげなく、定時でのトイレ誘導を行っている。夜間はオムツ使用したり、ポータブルトイレを使用している。	個々の排泄管理に排泄チェック表を作成し自立への支援に繋げている。布パンツへ変わった利用者もいて、継続出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や乳酸菌飲料を飲んでいる。また、体操や水分補給を行って便通を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴であり、1号館は午前中を基本としているが、希望があればいつでも提供できるように支援する。	週3回の入浴であるが希望があればいつでも入浴できる。現状では入浴拒否の方も無く、入浴剤や可愛い人形を使用して楽しんでもらっている。異性介助も特に問題はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に休息がとれるようにしている。眠れないときは、ホットミルクを提供したり、話しをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に内服薬の説明書を綴っており、確認している。また、訪問看護師や薬剤師に確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常時、その人が望んでいることやしたいことを会話等から収集している。散歩や塗り絵、家事動作等行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩を行っている。可能な限り外出の機会を設け、生活環境に変化を持たせている。また、自宅が近所の方は立ち寄って帰ってくるなど、家族の協力も得ている。	近辺への散歩や買い物の外出は日常的に支援している。個人的な外出は家族に相談し無理な時には職員が連れて行っている。地域のお祭りや近隣で開催の木市へも可能な限りの外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所の金庫で管理しているが、利用者で管理している場合もある。(家族と相談して)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ホームの電話を使用して家族と連絡をとったり、携帯電話を持っている方は、好きなときに電話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの明かりや光の調節を季節や時間帯に合わせて調節している。また、トイレや居室がわかりやすい様に字を大きくしている。季節に合わせて掲示物を変えて季節感を感じてもらえるように工夫している。混乱がない程度でテーブルの配置を変えるなどしてマンネリ化を防止している。	4階から6階にホームが有り、眺めはよく、陽光も入り明るい。テーブルやソファ、畳も有りそれぞれが自由にくつろいでいる。壁には季節の飾り物や習字の書が飾ってあり、各階はエレベータを使って行き来でき自由に利用している利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでわいわい過ごしたり、ソファでひとりゆっくり過ごしたり、個々の過ごし方を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物をできるだけ持ってきてもらうように言葉掛けを行っている。配置は安全に配慮しながら過ごしやすい空間作りを提供している。	今まで使っていたなじみの家具や鏡台を持ち込んだり、壁には家族の写真や花を飾ったり、それぞれが居心地よく過ごせる居室である	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握した上で、自立した生活が出来るように支援し、安全にも配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない